

平成 29 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス				
教科目名	国際連携実習 1	担当教員	北川秀夫、岩瀬裕之、本塚 智、出口利憲、森口博文 鈴木正人	
学年学科	1 年次 先端融合開発専攻	前期・後期	選択	1 単位
学習・教育目標	(A-2)10%, (B-1) 20%, (B-2)20% (C-2)30%, (D-3 創生) 10%, (D-4)10%	JABEE 基準 1 (1) : (b) (d) (e) (f) (g) (h)		
授業の目標と期待される効果： 短期留学生の本校における研究活動を支援する実習である。履修学生の専門知識を生かしながら、より広い視野での技術体験を体得させるとともに、その技術体験で得た成果をその後の学修（特に特別研究）に生かすことを目的とする。実習生として 6 日以上（4 5 時間以上）にわたって実習活動に従事する。以下に具体的な目標を記す。 ①技術者倫理を身につけること ②問題抽出・検討能力を身につけること ③協調・管理統率能力を身につけること ④実践能力を身につけること ⑤報告書作成能力を身につけること ⑥評価能力を身につけること 【クラス分け方式】		成績評価の方法： 提出書類に基づき、項目ごとに 5 段階の評価を行い、全ての項目で 3 以上であれば合格、2 以下が一つでもあれば不合格あるいは保留とする。保留の場合、その後の指導で 3 以上に改善されれば合格とする。 達成度評価の基準： 以下の項目について、総合的に 6 割以上のレベルにまで達していること。 ①技術者の社会的責任：自己、企業、国に課せられた責任（公衆の健康・安全・福利の最優先及び環境への配慮）を理解していること ②問題抽出・検討能力：課題や構想を実現する過程で発生する実務上の問題（製作手法、製作材料、耐久性、経済性、安全性、機能性、倫理性、環境問題等）を予想・抽出し、実現可能なものかどうかを検討・判断できることが、計画書により、限られた制約条件（時間、予算、自己の能力など）のもと、完成にいたる道筋が明確であること。 ③協調・管理統率能力：関係者とのコミュニケーションを通じて、協調・管理統率能力や、コミュニケーションが確認できること。 ④実践能力：種々の制約のもと、課題や構想を実施計画に従って、自主的、継続的に着実に実行できることについて、継続して努力した形跡が確認できること。 ⑤報告書作成能力：報告書の体裁等が守られ、論理的な整合性があること。 ⑥評価能力：報告書において、留学生についての論理的整合性のある評価を確認できること。		
授業の進め方とアドバイス： 原則として、所属研究室で短期留学生を受け入れることが前提となる。実習生は担当教員（原則的に短期留学生の受け入れ教員）と相談の上、留学生の実習支援プランを立て、事前準備を行った上で実習支援を行う。				
教科書および参考書： なし				
授業の概要と予定：前期・後期				
【履修までの流れ】 本実験では、履修までに以下の内容を実施する。 ・履修を希望する学生は指導教員と相談の上、留学生の実習テーマ名を決定する ・テーマ名が決定したら、専攻科長に連絡する ・実習開始までに履修登録を行う 【実習について】 6 日以上（4 5 時間以上）にわたって実習活動に従事する。ただし、事前準備、レポート作成にかかる時間を実習時間に含めることができる。 【提出書類について】 下記の書類を提出すること。 1) 国際連携実習 1 証明書（様式 1、指導教員が提出） 2) 国際連携実習 1 報告書（様式 2） 3) 国際連携実習 1 日誌（様式 3） 4) 国際連携実習 1 レポート （レポートの構成例） 留学生の実習内容、留学生の実習成果、留学生の実習成果に対する評価、実習生の事前準備内容、実習生の実習支援内容、考察（国際連携を通して得られたもの） 本授業はレベル B または C の AL として行う。				

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	未到達レベルの目安 (不可)
①	技術者倫理がかなり (8 割以上) 身についている。	技術者倫理がほぼ (6 割以上) 身についている。	技術者倫理が身についていない。
②	問題抽出・検討能力がかなり (8 割以上) 身についている。	問題抽出・検討能力がほぼ (6 割以上) 身についている。	問題抽出・検討能力が身についていない。
③	協調・管理統率能力がかなり (8 割以上) 身についている。	協調・管理統率能力がほぼ (6 割以上) 身についている。	協調・管理統率能力が身についていない。
④	実践能力がかなり (8 割以上) 身についている。	実践能力がほぼ (6 割以上) 身についている。	実践能力が身についていない。
⑤	報告書作成能力がかなり (8 割以上) 身についている。	報告書作成能力がほぼ (6 割以上) 身についている。	報告書作成能力が身についていない。
⑥	評価能力がかなり (8 割以上) 身についている。	評価能力がほぼ (6 割以上) 身についている。	評価能力が身についていない。